

セルロースファイバー最新情報

大手2社は天井断熱を推奨／セルロース一元化による代理店制度で躍進中

古紙にほう酸塩を混ぜて防虫・防火性を高めたセルロースファイバーは発売から25年を経ても、いまだに新規ユーザーから「新商品」として注目を集め、断熱材全体の約3%にまで成長している。

大手2社は天井断熱を推奨

日本セルロースファイバー工業会（事務所…王子製袋内）の会員企業は、トップが王子製袋、二位に日本製紙木材、三位、四位が吉永商事（本社…福井県）とデコス（本社…千葉）の計4社。

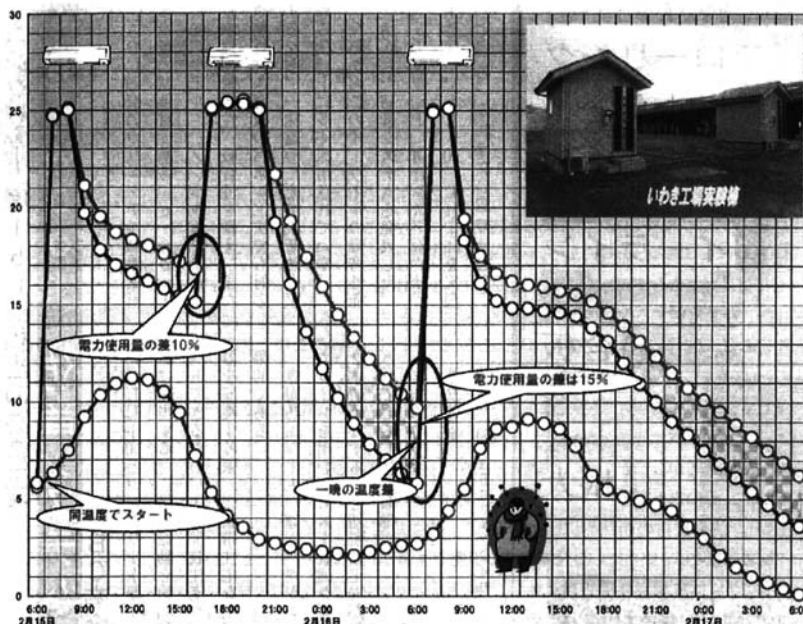
平成18年度のセルロースファイバーの総数1万2000トンのうち、王子製袋53・4%、日本製紙木材29・5%、吉永商事7%、デコス10%。このうち王子、日本製紙の非断熱の原料（窯業系など）に用いられる量を抜くと、王子製袋50・6%、日本製紙木材30・8%、吉永商事7・6%、デコス11%。平成18年は平成17年度比で計1

11%の伸び率となっている。

こうした成長は平成12年の省エネ基準以降からはじまったという。しかし、大手2社によれば、これといった宣伝はしていないという。しかしテレビのリフォーム番組でセルロースファイバーが取り上げられた翌日から一般客からの電話が事務所へ殺到。その後、工務店や設計事務所から施主からの要望で初めてセルロースファイバーを使いたいのだが、どこに頼めばいいのかという問合せがくるという。

セルロースファイバーの採用部位は、主に天井裏。施工ムラがなくカタログ性能値100%の性能が引き出せるので室内からの熱が逃げず、小屋裏の結露防止効果もある。日本製紙木材がいわき工場実験棟で行なった実験データ（次項表①）によれば、マット状の製品を充填したグラスウール断熱と比べると、冬季の暖房の使用量が異なってくる。これは主に天井断熱の際に野縁のすき間から逃げていく熱が原因と見られている。マット状の製品を

断熱材特集・セルロースファイバー



(表①) 暖房エアコン起動時の断熱材別室内温度推移 (エアコン温度25度/2007年2月15日~17日)  
セルロースとグラスファイバーで10~15%の電力差が出ている

充填するグラスウール断熱と異なり、セルロースファイバーは隙間なく充填できるため熱が逃げないのだ。このため大手2社では、まず天井断熱を推奨し、さらに予算に応じて壁・床下断熱も勧めている。グラスウール・ロックウールが材料費のみであるのに対し、セルロースファイバーはプロ

アを用いた吹き込み工法のため、材料費・工費がかかる。材料費のみでは同等でも、工費を入れるとグラスウールと比べ約3倍の価格差となる。工事は両社で全国150ほどの専門施工店が行っている。

100%セルロースファイバーによる代理店制度を展開中

大手2社は原料売りと登録施工店制度で運営しているが、これに対して「デコスドライ工法」という入会金付きの代理店制度でPRに力を入れていくのが現在10%のシェアにまで成長している(株)デコス(本社・山口県下関市、安成信次代表)である。デコスのセルロースファイバーは、安成工務店(山口県下関市)が開発した100%セルロースファイバー仕様の賃貸戸建住宅「ユニキューブ」の全国展開と密接にリンクしている。デコス、安成工務店、デベ・プロモーション事業を展開するハイアス・アンド・カンパニー(東京都港区・濱村聖一代表)による三位一体型事業である。デコスは日本製紙木材のOEMであったが、平成17年から下関市に工場を新設。新規代理店の営業は「ユニキューブ」の営業と密接に関わっている。

今年夏に開かれた第3回ユニキューブ全国大会によれば、ユニキューブのプロモーションは、チラシ・広告勧誘ではなく、モデルハウスの建設と地域の不動産業者との縁で地道に展開することを勧めている。不動産会社に「ユニキューブ」のモデルハウスの建設をすすめる工務店は、残地利用型の賃貸戸建住宅の採用による一棟あたり720万円(2棟同時施工)の有効な資産運用を勧め、同時にハイアス・アンド・カンパニーがFAX攻勢で建材店にセルロースファイバー系エコ断熱材「デコスドライ工法」の新規代理店加入を勧めるといった形だ。

「ユニキューブ」と同工務店開発の「エコパティオ」は無結露20年保証、型式認定による次世代省エネ断熱による等級4の性能表示制度でフラット35の5年間の0.3%金利優遇を受けられることもできる。

3社が運営している日本セルロースファイバー断熱施工協会(事務所・ハイアス・アンド・カンパニー内)が7月に開いた総会の発表によれば、セルロースファイバーの登録施工店の数は53社に増加している。こうした新たなビジネスモデルによるプロモーションがセルロースファイバーの生産全体を押し上げているといえるだろう。